

豊橋市自然史博物館所蔵森部一雄コレクションに含まれる 重要な愛知県産甲虫類

長谷川道明*

Rare or important beetles of Aichi Prefecture of “Dr. Kazuo Moribe’s collection” preserved in Toyohashi Museum of Natural History

Michiaki Hasegawa*

はじめに

豊橋市自然史博物館では、平成7年(1995年)に名古屋市在住の昆虫収集家森部一雄博士より約1,200点の昆虫標本の寄贈を受けた。森部博士は、昭和3年(1928年)に生まれ、一般の日本人がまだ海外で昆虫採集をするのが困難だった1960年代から1970年代の初めに、船医として世界各地を巡り、世界中で昆虫採集をした先駆者として、また航海中に洋上を移動する昆虫を調査して、この分野の研究発展に多くの貢献をされたことでも知られている。森部博士のコレクションの約半数は、船医時代に採集された海外の昆虫類であるが、残りは、東海地方で採集された標本で構成されている。このうち愛知県産の標本は、名古屋市内を中心に1950年代に採集されたものが多く、現在県下で絶滅あるいは絶滅の危機に瀕している種が少なからず含まれている。こうした標本は、愛知県下で絶滅の恐れのある種の現状を把握し、保全する上で重要な資料であり、早急な公表が望まれると考えられたので、優先的に資料登録を行い、若干の解説を添えて報告する。

本稿中に示したデータは、基本的に標本に付記されたラベルをそのまま転記し、産地、採集日時、採集者、豊橋市自然史博物館登録番号(TMNH-I-〇〇〇〇〇)の順に記した。また、森部博士自身からのご教示で、より詳細な地名、当時の環境などが判明したもの、現在と地名が変わっているものについては、解説を加えた。

目 録

オサムシ科 Carabidae

アトスジチビゴミムシ

Trechoblemus postilenatus (Bates)

(標本データ)

Nagoya, 26-VII-1954, K. Moribe 採集, (TMNH-I-20097, 第1図a)

当時森部博士の自宅があった名古屋市天白区八事付近での採集品と思われる。河川敷などの低湿地に生息する種で、愛知県下からは名古屋市緑区大高町で1975年に採集された記録(岩崎・蟹江 1990)が知られるに過ぎない。八事付近は、1950年代には雑木林が多かったという。

キベリマルクビゴミムシ

Nebria livida angulata Banninger

(標本データ)

Nagoya, 10-X-1950, K. Moribe 採集, (TMNH-I-20098, 第1図b)

上記種と同じ八事付近での採集品であると推定される。県下からは、「庄内川原(竜泉寺付近, 下之一色町, 高蔵寺町)」(穂積, 1960)の記録があるが、近年の記録報告はない。

ダイミョウアトキリゴミムシ

Cymindis daimio Bates

(標本データ)

Nagoya, Meijo, 23-VI-1950, K. Y. 採集, (TMNH-I-20099, 第1図c)

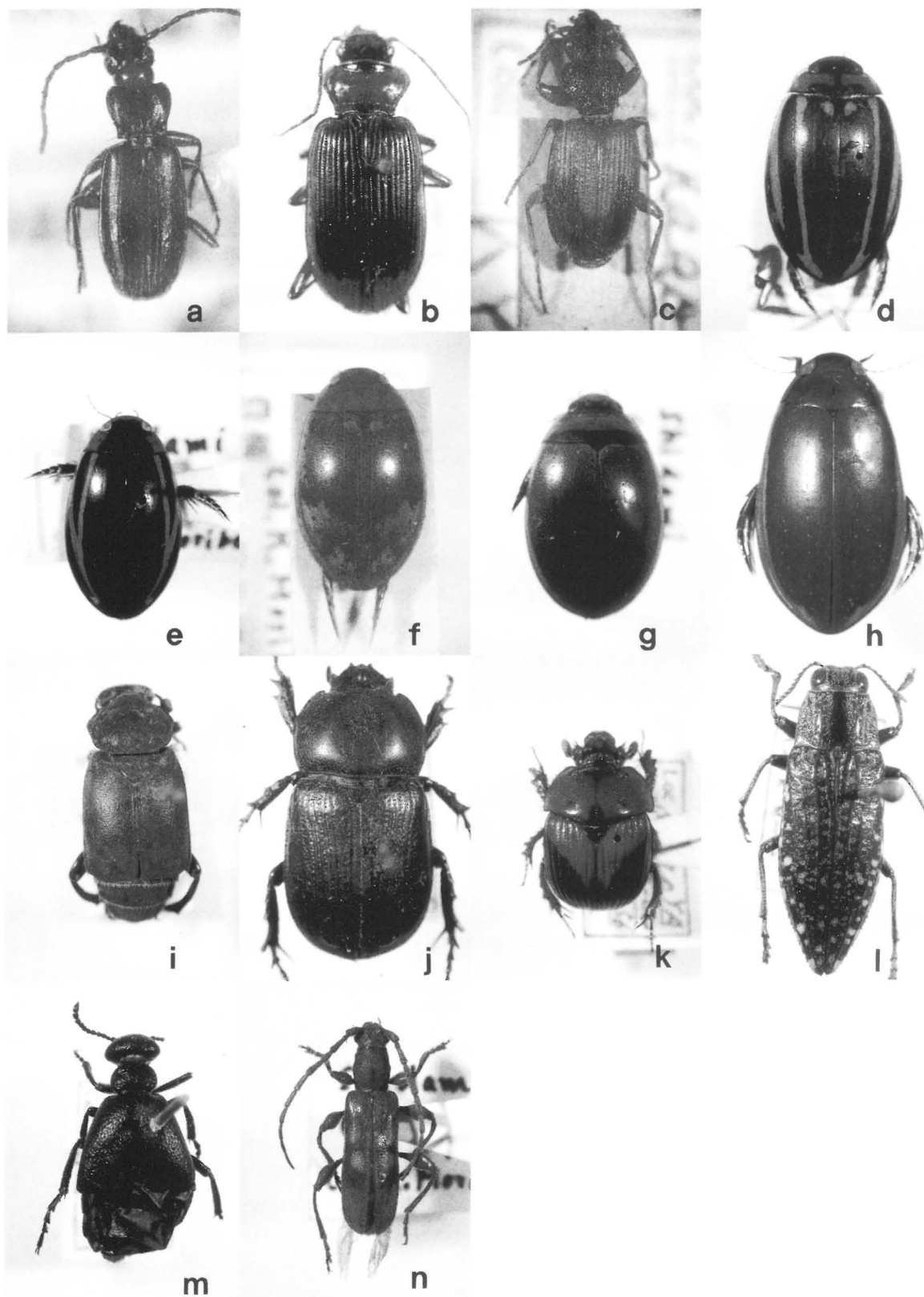
* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi 441-3147, Japan.

原稿受付 2002年2月19日. Manuscript received Feb. 19, 2002.

原稿受理 2002年2月19日. Manuscript accepted Feb. 19, 2002.

キーワード: 希少甲虫類, 愛知県, 森部一雄コレクション.

Key words: Rare Coleoptera, Aichi Prefecture, Dr. Kazuo Moribe's Collection.



第1図. 森部コレクションに含まれる重要な愛知県産甲虫類.

a, アトスジチビゴミムシ; b, キベリマルクビゴミムシ; c, ダイミョウアトキリゴミムシ; d, シマゲンゴロウ; e, スジゲンゴロウ; f, マダラシマゲンゴロウ; g, マルガタゲンゴロウ; h, コガタノゲンゴロウ; i, ヤマトモンシデムシ; j, コカブト; k, ムネアカセンチコガネ; l, クロマダラタマムシ; m, マルクビツチハンミョウ; n, ヨツボシカミキリ.

“Meijo”は、名城公園。採集者の「K.Y.」は、森部博士の中学の後輩で、大学で同じ研究室だった吉田国二氏。高崎（2001）によると、名城公園は、かつて小中学生の好昆虫採集地として知られていた。

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

シマゲンゴロウ

Hydaticus bowringi Clark

(標本データ)

Shidami, Aichi Pref., 20-VIII-1959, K. Moribe 採集,
(TMNH-I-20100, 第1図d)

Shidami, Aichi Pref., 9-VII-1959, K. Moribe 採集,
(TMNH-I-20101)

“Shidami”は、森部博士が当時勤めていた国立療養所志段味荘（現・国立療養所東尾張病院）。現在の地名は、名古屋市守山区大字吉根字長廻間である。

国立療養所志段味荘は結核患者の療養施設で、当時病室内に虫が入るのを防ぐため、下に水をはったドラム缶を配した誘蛾灯を庭に設置していた。本種以下“Shidami”というラベルのつけられた標本は、森部博士が当直のうちにこの誘蛾灯を見回って採集したものである。1959年当時、志段味荘付近には民家がなく、誘蛾灯には数多くの昆虫が誘因されていた。カブトムシなどは、一晚に20~30個体も飛来したという。

スジゲンゴロウ

Hydaticus satoi Wewalka

(標本データ)

Shidami, Aichi Pref., 22-VIII-1959, K. Moribe 採集,
(TMNH-I-20102, 第1図e)

Shidami, Aichi Pref., 9-VII-1959, K. Moribe 採集,
(TMNH-I-20103)

Shidami, Aichi Pref., 9~10-VII-1959, K. Moribe 採集,
(TMNH-I-20104)

Shidami, Aichi Pref., 9~10-VII-1959, K. Moribe 採集,
(TMNH-I-20105)

Shidami, Aichi Pref., 9~10-VII-1959, K. Moribe 採集,
(TMNH-I-20106)

Shidami, Aichi Pref., 13-VII-1959, K. Moribe 採集,
(TMNH-I-20107)

定光寺, 30-IV-1950, K. Moribe 採集, (TMNH-I-20108)

“Shidami”は、上記種と同じ国立療養所志段味荘（現在の地名：名古屋市守山区大字吉根字長廻間）。定光寺は、瀬戸市の定光寺周辺である。本種は、本州（関東以西）、四国、九州、トカラ中之島、国外では台湾、中

国、フィリピンなど東南アジアに広く分布する。日本列島では、かつて「池沼、水たまりに多い」（中根、1963）と図鑑に解説されていたが、現在では「生息確認が最も困難な種の一つ」（森・北山、1993）と変わり、環境省によって絶滅危惧Ⅰ類に指定されている。かつて稀種でなかったのにもかかわらず、現存する国内産の標本も僅かではない。

マダラシマゲンゴロウ

Hydaticus thermonectoides Sharp

(標本データ)

Shidami, Aichi Pref., 11-IX-1959, K. Moribe 採集,
(TMNH-I-20109, 第1図f)

森・北山(1993)によると、きれいで冷たく、貧栄養な止水域を好んで生息する種と推測されている。愛知県からは、美浜町（佐藤、1971）からの記録が知られるのみ。隣接する三重県では、現在でも生息が確認されている。

マルガタゲンゴロウ

Graphoderus adamsii (Clark)

(標本データ)

Shidami, Aichi Pref., 20-VIII-1959, K. Moribe 採集,
(TMNH-I-20110, 第1図g)

愛知県内では、名古屋市港区土古町（穂積・佐藤、1957）から記録があるに過ぎない。本種も多くの中型・大型のゲンゴロウ類とともに近年著しく減少した種の一つである。

コガタノゲンゴロウ

Cybister tripunctatus orientalis Gschwendtner

(標本データ)

Shidami, Aichi Pref., 21-VII-1959, K. Moribe 採集,
(TMNH-I-20111)

Shidami, Aichi Pref., 13-VIII-1959, K. Moribe 採集,
(TMNH-I-20112, 第1図h)

かつて平地から低山地に普通に見られた種であるが、現在本州ではきわめて確認が難しい存在になっている。愛知県内において、現在も存続して生息している可能性は極めて低い。

シデムシ科 Silphidae

ヤマトモンシデムシ

Nicrophorus japonicus Harold

(標本データ)

Shidami, Aichi Pref., 13-VII-1959, K. Moribe採集,
(TMNH-I-20113, 第1図i)

かつて平地のシデムシとして代表的な存在で、佐藤(1990)によると、安城市、名古屋市、小牧市、犬山市、津島市、立田村から記録がある。海部郡南部では90年代以降も生息を確認しているが、県下では生息情報が少なくなっていることは確実で、絶滅を危惧される状態にあると推測される。

ムネアカセンチコガネ科 Bolboceratidae

ムネアカセンチコガネ

Bolbocerosoma nigroplagiatum (Waterhouse)
(標本データ)

Nanzan-cho, Nagoya, 27-X-1956, K. Moribe採集,
(TMNH-I-20114, 第1図k)

現在森部博士の自宅のある名古屋市瑞穂区南山町での採集品。現在の南山町付近は、高級住宅街となっているが、当時は雑木林と空き地が多い場所であったとのことである。

コガネムシ科 Scarabaeidae

コカブト

Eophileurus chinensis (Faldermann)
(標本データ)

名城, 32年7月20日, T.Y.採集, (TMNH-I-20115)

Nagoya-jo, 8-VII-1956, T.Y.採集, (TMNH-I-20116, 第1図j)

いずれも名古屋城ないしは名城公園での採集品。採集者の「T.Y.」は、森部博士の後輩吉田国二氏の実弟、吉田哲朗氏。「TMNH-I-20115」標本のデータは和歴で書かれている(西暦では1957年)。

タマムシ科 Buprestidae

クロマダラタマムシ

Nipponobuprestis querceti (Saunders)
(標本データ)

名古屋城, ?-VI- 1950, Nakano(?) 採集, (TMNH-I-20118, 第1図l)

日付および採集者は、インクが消えてしまっていて判読できない。名古屋市からは過去にも記録はなく、これがはじめての記録である。本種の生息には、エノキなどの大木を伴う森が必要で、かつて名古屋市内にも本種が生息できる環境があったことを示す貴重な標本である。

ツチハンミョウ科 Meloidae

マルクビツチハンミョウ

Meloe corvinus Marseul

(標本データ)

Nagoya, R. Shonai, 29-IV-1957, T. Y. 採集, (TMNH-I-20118, 第1図m)

名古屋市内の庄内川で採集された標本。詳細な場所の特定はできないが、採集者が吉田哲朗氏であることから、竜泉寺付近の可能性が高いと推測される。本種は、尾張地方平野部からの記録としては、小牧市小牧(穂積, 1958; 1990)、名古屋市茶屋ヶ坂(穂積, 1958)があるが、いずれも昭和30年代、あるいはそれ以前のもので、近年の生息確認例は聞かない。

カミキリムシ科 Cerambycidae

ヨツボシカミキリ

Stenygrinum quadrinotatum Bates

(標本データ)

Shidami, Aichi Pref., 20-VI-1959, K. Moribe採集,
(TMNH-I-20119, 第1図n)

Shidami, Aichi Pref., 20-VI-1959, K. Moribe採集,
(TMNH-I-20120)

かつては、名古屋市はもちろん県内13市町村から確認され(湯沢ほか, 1990)、むしろ普通種とされていた種であるが、最近急速に確認できなくなり、現在では絶滅が危惧されている種である。多くの昆虫愛好家の調査対象となるカミキリムシの仲間でありながら、1990年以降に生息が確認されたのは、旭町(蟹江ほか, 2001)のみである。普通種とされていた時代には、民家周辺に置かれた薪から発生していたと思われ、薪の集積地およびその供給源である雑木林の消失が衰退要因として推定される。

謝 辞

半生にわたって収集された貴重なコレクションを寄贈された、森部一雄博士には、本稿の執筆にあたって、標本データについて数々のご教示いただいた。また、名古屋女子大学大学院の佐藤正孝教授には原稿を読んでいただいた。両氏に深く感謝申し上げる。

引用文献

- 穂積俊文, 1958. 東海甲虫誌(第5報). 佳香蝶, 9(33): 3-8.
穂積俊文, 1960. 東海甲虫誌(第9報). 佳香蝶, 12(41): 17-23.
穂積俊文, 1990. 愛知県の甲虫類(II). 愛知県の昆虫(上),

- 愛知県自然保護課, 232-308.
- 穂積俊文・佐藤正孝, 1957. 東海甲虫誌 (第3報). 佳香蝶, **9** (31): 1-10.
- 岩崎 博・蟹江 昇, 1990. 愛知県のオサムシ類. 愛知県の昆虫 (上), 愛知県自然保護課, 309-338.
- 森 正人・北山 昭, 1993. 図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京, 217p.
- 蟹江 昇・長谷川道明・河路掛吾・湯沢宣久・大平仁夫・戸田尚希・岩崎博・畑山武一郎・山崎隆弘・伊澤和義・野平照雄・奥島雄一・吉富博之, 2001. 旭町の甲虫目. 旭町の昆虫, 1-4, 89-173.
- 中根猛彦, 1963. ゲンゴロウ科. 原色昆虫大図鑑, 2 (甲虫編), 北隆館, 東京, 56-61, pls. 38-31.
- 佐藤正孝, 1971. 知多半島の水生甲虫類. 日本昆虫学会東海支部報, **24**: 2-3.
- 佐藤正孝, 1990. 愛知県の甲虫類 (I). 愛知県の昆虫 (上), 愛知県自然保護課, 204-231.
- 高崎保郎, 2001. 「名古屋北郊の蝶類 (中野栄三)」と穂積先生穂積俊文博士記念論文集「東海甲虫誌」, 穂積俊文記念論文集発行事業会, 358-362.
- 湯沢宣久・蟹江 昇・河路掛吾・竹内克豊, 1990. 愛知県のカミキリムシ科. 愛知の昆虫 (上), 愛知県自然保護課, 389-433.